

【第46回世界遺産委員会レポート】『佐渡島の金山』の登録と その他の注目ポイントを世界遺産アカデミー研究員が解説

2024年7月21日～31日にかけて、インドのニューデリーでユネスコの第46回世界遺産委員会が開催されました。日本から推薦された『佐渡島の金山』を含め、新たに24件の世界遺産が誕生し、世界遺産の総数は1,223件となりました。新規遺産以外では、危機遺産に関して議論が紛糾する場面も見られました。今年の委員会の注目ポイントを、NPO法人世界遺産アカデミーの宮澤光主任研究員が解説します。

なお、新規登録の遺産と和訳の一覧は以下ページをご参照ください。

https://www.sekaken.jp/pdf/202407_new.pdf



NPO法人 世界遺産アカデミー 宮澤光 主任研究員

北海道大学大学院博士後期課程を満期単位取得退学。仏グルノーブル第II大学留学。2008年より現職。早稲田大学、跡見学園女子大学非常勤講師。世界遺産アカデミーの研究員として世界遺産に関するさまざまな書籍の編集・執筆・監修を手掛けるほか、これまで全国各地で100本を超える講演・講座を実施している。

特定非営利活動法人 世界遺産アカデミーについて

ユネスコの理念を広め、多文化理解を進めることで、世界遺産の保全活動の輪を広げ、社会に貢献することを目的に設立。2006年より、世界遺産条約の理念や世界遺産の価値を学ぶ「世界遺産検定」を開催。受検料の一部はユネスコの信託基金「世界遺産基金」に寄付され、世界遺産の保護・保全に役立てている。そのほかにも講師派遣や、講演会・文化体験・クリーンツーリズム・建築見学ツアーといった各種イベントの開催など様々な取り組みを行う。

【世界遺産アカデミー公式HP】 <https://wha.or.jp/>

世界遺産検定について

ユネスコの理念を知り世界遺産活動の輪を広げることを目的に、世界遺産アカデミーが主催する文部科学省後援の検定。2006年の第1回検定以来、35万人以上が受検、20万人以上が認定されている。年4回、全国の主要都市で開催しており、4級、3級、2級、1級、最上級のマイスターのほか、2024年7月第56回検定からは準1級も新設されて全6級構成となった。20代を中心に子どもからシニアまで幅広い受検者を集め、メディアからの注目の高い。大学等入試優遇や学校での授業にも組み込まれている他、世界遺産に関連する施設・催事などでの認定者向けの優待特典もある。受検者からは「世界遺産を勉強したら、旅がもっと楽しくなった」との声も多く、趣味・教養を深める検定としても人気を博している。

【世界遺産検定公式HP】 <https://www.sekaken.jp/>

◎本プレスリリースに関するお問い合わせは以下までお願いします

世界遺産検定事務局 担当 藤本（ふじもと）

TEL.03-4332-1049 FAX 03-3556-2742 E-mail sekaken@wha.or.jp ※土日祝休み

※以下、宮澤研究員による解説

■世界遺産は 1,223 件に

今回の第 46 回世界遺産委員会では、文化遺産 19 件、自然遺産 4 件、複合遺産 1 件の合計 24 件が世界遺産リストに新たに記載され、総数は 1,223 件になりました。また登録範囲の拡大も 2 件ありました。一方、危機遺産リストからは 1 件脱することができましたが、パレスチナの『聖ヒラリオン修道院／テル・ウンム・アメル』が世界遺産リスト記載と同時に危機遺産リストにも記載されたため、総数としては変わらず 56 件です。

新規登録された 24 件の遺産のうち、諮問機関から「登録」勧告が出されていたのは 19 件 (*1) で、残りの 5 件のうち、日本の『佐渡島の金山』を含む 3 件は「情報照会」勧告からの「登録」決議、イランの『ハグマターナ』の 1 件が「登録延期」勧告から 2 段階アップの「登録」決議、最後の 1 件の『聖ヒラリオン修道院／テル・ウンム・アメル』は緊急的登録推薦で推薦されたため、検討する期間が不十分であるとして ICOMOS から勧告が出されていませんでした。

こうしてみると、「情報照会」勧告が「情報照会」決議になったのは 1 件だけで、それ以外の「情報照会」勧告は全て登録されたこととなります。近年指摘され続けていることではありますが、諮問機関による「情報照会」勧告に意味があるのか、その意義について考え直す必要がある気がします。「情報照会」勧告が不要ということではなく、その勧告を真摯に受け止めるべきではないかという意味です。

■『佐渡島の金山』が世界遺産に登録！

◆あっさり登録が決議

『佐渡島の金山』は、ICOMOS から「情報照会」勧告が出されていただけでなく、韓国との間に強制労働に関する問題があるなど、本会議でも紛糾するのではないかと少し心配していました。当日の審議順も後回しに変更になり、同じく後回しになった 2015 年の「明治日本の産業革命遺産」の時と同じような気配もありましたが、韓国との間に合意ができているという直前の報道の通り、大きな議論もなくブルガリアが提出した登録決議を求める修正案に 16 カ国 (*2) が賛成し、あっさり登録が決議されました。ICOMOS からの修正項目について世界遺産委員会開催前には対応できていたこと、韓国政府との間でしっかりと話し合いができていたこと、朝鮮半島出身者が過酷な労働を行っていたことを示す展示の一部がすでに出されていることなどがあり、「情報照会」勧告からの 1 段階アップの決議につながりました。



『佐渡島の金山』 (©photoAC)

かつての『佐渡島の金山』での労働は過酷であり、中でも朝鮮半島出身者がより危険な労働に従事していたことや、今回の遺産価値 (OUV) には含まれない国家総動員法の下での労働環境などにも踏み込んだ歴史背景について、登録決議後に日本政府代表がコメントし、それを受けて韓国政府代表が、朝鮮半島出身者が危険な労働に動員されたことや全ての歴史には「正の面と負の面」があること、日韓両国の未来志向の関係性を目指し今後も展示内容で連携していくことなどのコメントをしました。

◎本プレスリリースに関するお問い合わせは以下までお願いします

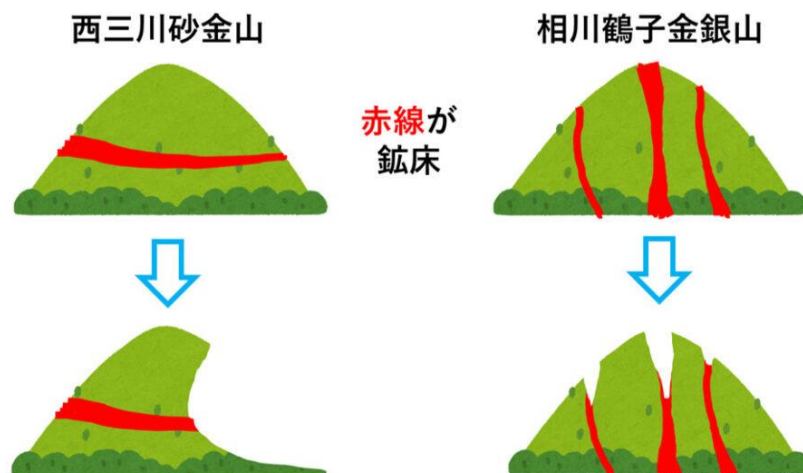
世界遺産検定事務局 担当 藤本 (ふじもと)

TEL. 03-4332-1049 FAX 03-3556-2742 E-mail sekaken@wha.or.jp ※土日祝休み

◆『佐渡島の金山』の価値

『佐渡島の金山』は、世界で機械を使った採掘が導入され始めた17世紀初頭から19世紀半ばに、「西三川砂金山」と「相川鶴子金銀山」において手作業による独自の採鉱と精錬が続けられた点が他に類をみないものとして評価されました。登録基準 (iii) と (iv) で推薦されましたが、決議では登録基準 (iv) のみが認められました。登録基準 (iv) は「建築技術・科学技術」を評価するものです。

佐渡島で採れる金によって17世紀の日本が世界最大級の金の生産地となったとの記述もありますが、この遺産の価値はそこではありません。「西三川砂金山」と「相川鶴子金銀山」では、鉱床の入り方が異なっており、それぞれの鉱山において異なる最適化された技術で採掘と精錬を行ったという鉱山関連技術が、世界遺産の価値として評価されました。



鉱床が山に対して横向きに入っている「堆積砂金鉱床」の西三川砂金山では、山を削って水の勢いで採掘する「大流し」という手法が採られ、鉱床が山に対して縦に入っている「鉱脈鉱床」の相川鶴子金銀山では露頭掘りや坑道掘りが行われ排水坑道なども整備されました。相川鶴子金銀山にある「道遊の割戸」を見てみると、鉱床をよく研究して自然の山を変形させてしまう程の人間の執念のようなものすら感じます。

江戸幕府を支えた「佐渡島の金山」で過酷な労働が行われていたことは史料が残されており、世界遺産がどうこう以前から展示説明がされていますし、学校でも学びます。世界遺産というと、その遺産の「光が当たる面」ばかりが強調され、美化されすぎているように感じることもあります。光の面と影の面があって初めて遺産のことが立体的に見えてきますので、ぜひその両面に注目していただきたいなと思います。

今回の『佐渡島の金山』の登録は、「明治日本の産業革命遺産」の時とは日本国内の政治状況や体制、日韓関係などが異なっていますが、日韓両国が共に歩み寄りを見せて登録につながったことはとても素晴らしかったと思いました。

(*1) 複合遺産として推薦され、文化遺産が「登録」勧告、自然遺産が「不登録」勧告で、文化遺産として登録されたエチオピアの「メルカ・クントウレとバルチット」を含む

(*2) ブルガリア、ジャマイカ、ベルギー、カザフスタン、カタール、イタリア、ヴェトナム、ザンビア、セネガル、ケニア、ギリシャ、インド、ウクライナ、ルワンダ、メキシコ、セントヴィンセント・アンド・グレナディーン

研究員がそのほかに注目した新規遺産や危機遺産については、PR TIMES サイト上の Web 版をご覧ください。

◎本プレスリリースに関するお問い合わせは以下までお願いします

世界遺産検定事務局 担当 藤本（ふじもと）

TEL. 03-4332-1049 FAX 03-3556-2742 E-mail sekaken@wha.or.jp ※土日祝休み